

シビル歴史散歩 **大丸用水を歩く**

5日シビルの歴史散歩で、稲城の大丸用水を歩いてきました。今回の案内人は、稲城に勤める後輩のSさん。私はスタッフとして



大丸取水堰

の参加。

大丸用水は、多摩川の水を南武線多摩川鉄橋の上流にある堰で取水し、稲城市から川崎市菅地域の多摩川南岸の平野の田んぼや梨園に利用されている現役の農業用水です。もちろん、周辺の宅地化も進み、農業用水以外にもその流れを活用した親水公園の役割も持っています（実は、ここ2021年5月にも歩いていて「たまに」275号にも掲載）。

南多摩駅から多摩川に出て、取水堰を見ます。多摩川をせき止め水位を上げて用水に引水するこの堰、実は今年度から壊し始めるのだとか。2019年の台風19号で堰周辺の水位が危険水位になったのだそうで、堰をなくすことで水位を1.5m下げ、取水口をより上流にして、そこから地下水路で大丸用水につながるといいます。



そこまで大規模な工事をしないと、洪水と用水が両立しない、そしてそうまでして守られる水利権（田んぼが減っているとはいえ）があることあらためて感じます。

南多摩駅に戻り、そこからは管堀（いくつにも別れる大丸用水の本線）に沿った遊歩道を歩きます。途中、何回か、用水は分岐してゆき、稲刈りが済んだ田んぼのワキにもその分水の水路が来ていることを確認します。午前中は、稲城長沼駅まで。

そこから南武線でショートカット。午後、稲田堤駅からまた管堀（このあたりが菅で、川崎市）を見つけ、なるべくそれに沿って歩きます。しばらくすると、管堀は、山すそを回ってきた三沢川に落ちて終了、三沢川は水位が低く、排水路として利用されています。

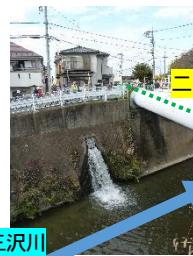


二ヶ領用水上川原堰

と、まもなく、多摩川の土手に三沢川の排水門（合流地点で多摩川からの逆流を防ぐ水門）が見えてきます。が、その手前で、この下流域の平野を潤す二ヶ領用水と交差します。

多摩川に出ると、その二ヶ領用水取水（水位を上げる）のための立派な上川原堰が見えてきます。しかし、水位が上がった多摩川に排水路としての三沢川はつけられないので、手前での交差が起き、二ヶ領用水は、大きなパイプとなった橋で、三沢川を越えているのです。

川の水を統べらす（治水）のは、ほんとうに大変なことだ、と。



三沢川

二ヶ領用水